

調査月報 2018/10

目 次

A.台湾経済	1. 景 気 01	2. 物 価 01	3. 失 業 率 01	
	4. 通 関 貿 易 02	5. 鉱工業生産 02	6. 小売業売上高 02	
B.トピックス	2018 年第 3 四半期の実質 GDP 成長率の速報値（支出面）			03
C.経済統計	台湾主要経済指標 04	物 価 指 数 06	雇 用 概 況 06	貿 易 統 計 07
	鉱工業生産指数 10	商業売上高伸び率 10	為 替 相 場 11	対台・対外投資統計 13

1.景気 2018年8月

a.景気総合判断点数 27 点※

先月比 2 ポイント下落したものの、景気対策信号は2ヶ月連続で緑ランプ(安定)を維持した。先行と一致指標共に下落したことから景気回復力強さが欠ける状況が窺える。当局は個人消費の拡大、民間投資のプラス推移、輸出の好況で景気は維持出来るが、米中貿易摩擦の影響、地政学的な政治リスクに注視する必要と示唆。

b.景気動向指数

①景気一致指数 (当面の景気動向を示す指数)

卸売小売業売上高、機械電機設備輸入額は先月より下落したが、他の5項目は全て下落。

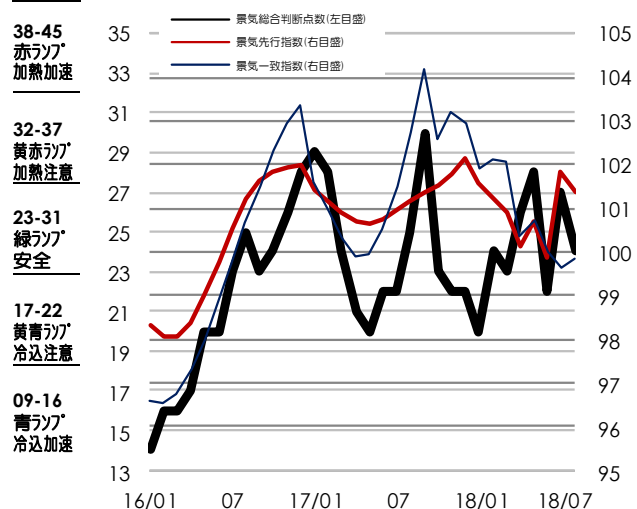
②景気先行指数 (数ヶ月先の景気動向を示す指数)

実質通貨総計数 M1B 指数等の3項目は先月より上昇したが、他の4項目は全て下落。

※SEMI=国際半導体製造装置材料協会

※M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会



2.物価 2018年8月

a.卸売物価 WPI: 前年同月比+6.83%

石油、鉱製品、金属等の原材料価格は軒並み大幅上昇した影響で、国内製品の物価指数も上昇となった。台湾元為替レートが1.52%の下落を受け、卸売物価指数は6%台上昇した。又、輸出入物価指数も大幅に上昇した。

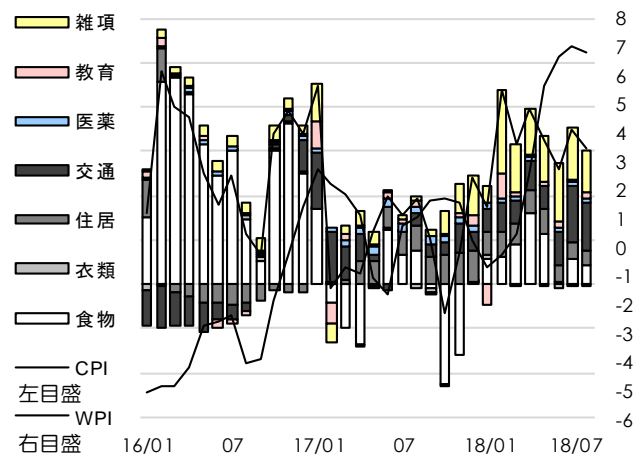
b.消費者物価 CPI: 前年同月比+1.53%

①交通・通信類は国際原油価格の上昇を背景に燃料費と航空券料金が値上がった。

②食品類では鶏卵、乳製品、果物等の価格の値上がったものの、野菜の値下がりや拮抗した為、値上がり幅が縮小となった。

③雑貨類ではタバコ税金の引き上げにより、タバコ価格が32.32%も値上がった。

図 A2.消費者物価指数(CPI)上昇率と構成項目の寄与度 単位% 前年比ベース 出所 主計総処



3.失業率 2018年8月

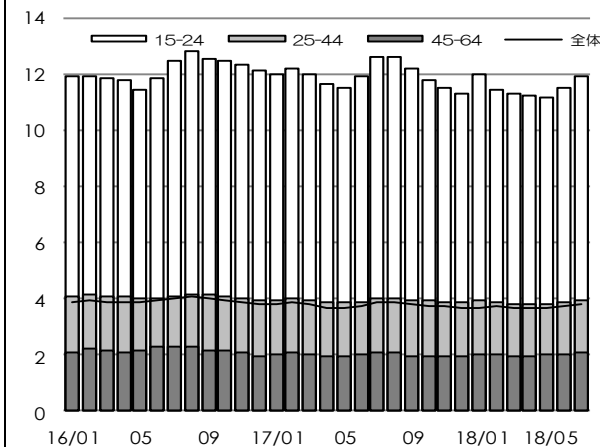
a.失業率 3.87%

先月比 0.06%の上昇、前年同月比 0.02 ポイントの減少、失業者数は46.1万人で前月より8千人増加した。その内、初めての求職活動で仕事が見つからない人は5千人増加、仕事内容への不満から離職した人は2千人の増加、業務縮小又は廃業で離職した人は1千人減少した。

b.就業者数は先月比 1.6 万人 (+0.14%) の増加

前年同月比+0.72%の1,145.9万人、業種別では、製造業は同+0.67%の307万人、第三次産業は同+0.81%の680万人となった。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業 26.79%、第三次産業 59.38%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)13.83%となった。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:% 出所:主計総処



4.通関貿易 2018年8月

a. 8月輸出額 283.0億 US\$, 前年同月比+1.9%

国別では中国(含む香港 117.3億 US\$, 同+3.0%)、日本(18.5億 US\$, +7.6%)で全般プラスの成長を維持出来た。財別では原油価格の値上で鉱製品の値上がり幅が最大で約46.0%となった。

b. 8月輸入額 237.7億 US\$, 同+7.9%

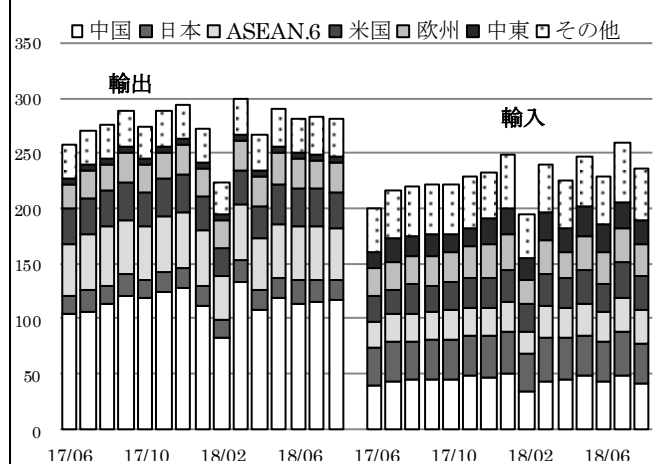
国別ではアセアン(31.6億 US\$, +21.2%)、中東(22.2億 US\$, +23.8%)等と軒並みに2桁伸びとなった。財別では輸出の好調を受け、半導体設備買付け増で73.5%の伸びとなった。

c.収支

8月の黒字額 45.3億 US\$, 同-21.0%

黒字では、中国(+9.4%)は増加、米国(-47.2%)とアセアン(-42.6%)は減少で全般マイナスの成長だった。赤字では、欧州(+296.0%)は大幅に増加し、日本(-2.9%)は減少した。

図 A4.輸出入 国別実績 億 US\$ 出所: 財政部



5.鉱工業生産 2018年8月

a. 鉱工業生産全般

8月の指数は112.96で前年比+1.33%、6ヶ月連続でプラス成長となった。内、製造業の年増率は+1.85%と上昇し、鉱業・土砂採掘業は同-5.69%、電力・ガス供給業は同-4.06%、水道業は同-0.65%と軒並みにマイナス成長となった。

b. 製造業

4大産業別

①金属機械

国際鉄鋼価格の安定、自動化生産設備需要増となったが自動車販売不調で全体マイナスとなった。

②電子情報

新興技術応用の拡大、モバイル在庫準備増等による生産増で全体を押し上げた。

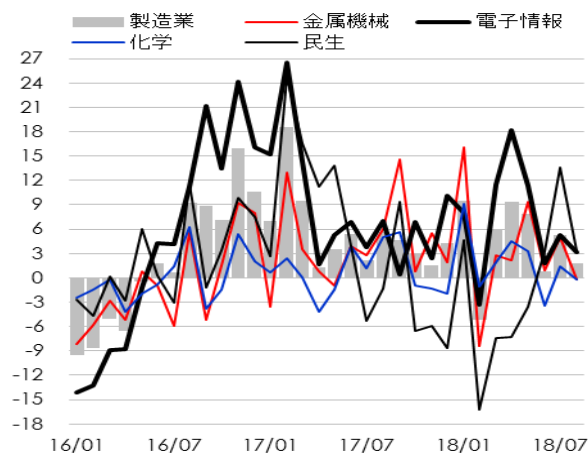
③化学

化学原材料業が増産したが、ゴム業が減産でほぼ横ばいに止まった。

④民生

タバコ課税により在庫需要減少した為、比較基準が低く、プラス成長となった。

図 A5.製造業4大産業別伸び率推移 単位% 前年比ベース 出所: 經濟部



6.小売業売上高 2018年8月

a. 小売業全般:

燃料小売業が石油価格の高騰で+15.7%の高い伸び率に加え、総合小売業は中元節向け贈答品の販売好調等で7%台の伸びとなった。又、自動車業は「鬼月」で販売不振になり、全般で1%台未満の伸び率に転じた。

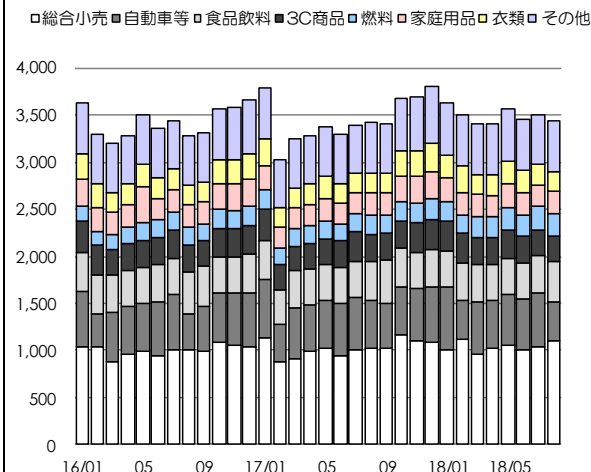
b. 総合小売業

- ①百貨店 売上高は新品とリニューアル効果による来客増等で+5.0%伸びとなった。
- ②スーパー 店舗数の拡大や中元節販促活動等で11.7%増の212億元の成長となった。
- ③コンビニ 気温上昇による清涼飲料の販売好調で+3.9%の296億円となった。
- ④量販店 売上高は11.5%増の伸びを見せた。

c. 外食業

夏期シーズンや父の日等のファミリー外食需要増により消費が伸びた。

図 A6.小売業売上高 業界別 億 NT\$ 出所: 經濟部



2018年第3四半期の実質GDP成長率の速報値(支出面)

図表 1-1&1-2 参照

トピックス

(1)実質 GDP 成長率の速報値 (10/31 発表)

18年Q3のGDP成長率は前年同期比+2.28%、8月時点の予測値2.36%より0.08%下回った。5四半期ぶりに3%を下回った。当局は成長率が鈍化した要因は消費の伸びが予測より減退した事と指摘した。

(2)内需:

①個人消費は2%台未達の小幅成長に止まった

石油製品と総合製品の売上高、自動車販売の不振等により小売業の売上高は微増となったほか、株式市場の緩やかな幅増等から、個人消費は2%台未達の小幅成長に止まった。政府消費は去年予算の高い執行率の一服から、-1.39%のマイナス成長に転じた。

②資本形成は大幅成長を呈した(在庫変動を含めたもの)

第3四半期は航空業者の設備投資や研究開発等の資本支出が減少が、半導体設備への投資が好況による資本設備の輸入額はプラス成長になったほか、建設事業への投資額伸びが続いた事等から、資本形成は+17.46%の実質成長で、対経済寄与度は3.36%のプラス成長となった。

(3)外需:

①輸出は減速傾向にある

世界的な景気の緩やかな拡大を受け、IT技術応用が活発化となり、国際原油価格の高騰で第3四半期の輸出額は四半期ベースで史上最高となったものの、去年同期の比較対象

数値が高かった影響で、輸出は減速傾向にある。輸出品目の内、最大の割合を占める電子部品が+2.46%の増幅ほか、鉱製品、化学品、基本金属等の輸出額もプラス成長で推移出来た事から、前年同期比+1.42%の小幅成長に止まった。

②輸入は輸出の持続需要に牽引されて+5%台の成長

国際原材料価格の高騰、半導体設備投資増加等の押し上げのほか、輸出の持続需要に牽引され+5%台の成長を支えた。輸入の伸び率が堅調であった為、純輸出はGDP成長率に対する寄与度がマイナス1.88%に転じた。

図表 1-1. 実質 GDP と各支出面の構成項目の予測成長率 単位: %

		2018					2019	
		通年	Q1	Q2	Q3(a)	Q4	通年	
対前年同期成長率	GDP	2.69	3.10	3.30	2.28	2.09	2.55	
	内需	内需計	3.43	2.58	1.83	4.84	4.58	2.43
		個人消費	2.47	2.76	2.55	1.90	2.26	2.52
		政府消費	3.12	6.60	5.76	-1.39	1.33	0.08
		資本形成	6.13	-0.40	-2.57	17.46	14.72	3.78
外需	輸出	3.35	6.30	6.29	1.42	0.49	3.08	
	輸入	4.74	6.15	4.48	5.23	3.98	2.98	
対成長率の寄与度	内需	内需計	3.00	2.35	1.66	4.16	3.85	2.17
		民間消費	1.31	1.56	1.38	0.99	1.12	1.35
		政府消費	0.44	0.86	0.81	-0.19	0.20	0.01
		資本形成	1.26	-0.07	-0.53	3.36	2.53	0.80
	外需	純輸出	-0.31	0.75	1.65	-1.88	-1.76	0.39
	輸出	2.19	3.96	3.97	0.94	0.32	2.05	
	輸入	2.49	3.21	2.32	2.82	2.08	1.67	

註: 1.速報値は2018/Q3のみ。他の数値は2018Q2時点の暫定値。

2.資本形成=固定資本形成+在庫変動。

図表 1-2. 実質 GDP 予測成長率 (支出面) 単位: % 出所: 主計総処

